

「パーソントリップ調査結果による高齢者の移動実態分析等」結果（要旨）

1 委託概要

- 目的 東京都市圏パーソントリップ調査結果に基づき、都内の高齢者の移動の現状等を把握・分析し、高齢者の社会参加促進の検討を進めるための基礎資料とする。
- 委託先 株式会社日本能率協会総合研究所

2 結果概要

(1) 高齢者の外出・移動の概況・推移（平成 10、20、30 年）

① 夜間人口

- ・ 平成 10 年から 30 年にかけて、都内の全人口、高齢者人口ともに増加。高齢者の増加率が高い。 (p12)
(全人口 H10 : 1,137 万人 ⇒ H20 : 1,201 万人 ⇒ H30 : 1,333 万人)
(高齢者 H10 : 174 万人 ⇒ H20 : 243 万人 ⇒ H30 : 321 万人)

② 外出人口

- ・ 全年齢では平成 10 年から 20 年にかけての増加傾向が一転、平成 30 年には減少。一方、高齢者は、平成 10 年から 30 年にかけて増加。 (p12)
(全人口 H10 : 962 万人 ⇒ H20 : 1,063 万人 ⇒ H30 : 1,045 万人)
(高齢者 H10 : 105 万人 ⇒ H20 : 176 万人 ⇒ H30 : 195 万人)

③ 外出率（注 1）

- ・ 全年齢、高齢者ともに、平成 10 年から 20 年にかけて増加し、平成 20 年から 30 年にかけて減少。高齢者について男女別にみると男性の外出率が高い。 (p14)
(全年齢 H10 : 85% ⇒ H20 : 89% ⇒ H30 : 78%)
(高齢者 H10 : 60% ⇒ H20 : 73% ⇒ H30 : 61%)

〔注1〕パーソントリップ調査日に(1 回以上)外出した人の割合。外出人口(パーソントリップ調査結果を国勢調査の人口規模に拡大処理 p5)÷夜間人口(国勢調査結果をもとに算出)

④ 総トリップ（目的トリップ）数（注 2）

- ・ 全年齢では平成 10 年から 20 年にかけて増加し、平成 20 年から 30 年にかけて減少。
(H10 : 2,744 万トリップ ⇒ H20 : 3,044 万トリップ ⇒ H30 : 2,770 万トリップ)

- ・ 高齢者では平成10年から30年にかけて、人口増を受けて増加傾向(p17)
(H10： 285万トリップ ⇒ H20： 519万トリップ ⇒ H30： 536万トリップ)

(注2) 人がある目的(通勤、私事(買い物)、帰宅等)をもって、ある地点からある地点へと移動する単位で、目的を持った移動の回数を表す。1回の移動でいくつかの交通手段を乗り換えても1トリップ。
例：自宅と勤務地を往復する、自宅⇄(徒歩、鉄道等)⇄勤務地 の移動は、「通勤」と「帰宅」で目的トリップ数は2。(P6)

⑤ 外出人口1人当たりの平均目的トリップ数(注3)

- ・ 全年齢では、平成10年から20年にかけて微増、平成20年から30年にかけて減少
(全年齢 H10：2.85トリップ ⇒ H20：2.86トリップ ⇒ H30：2.65トリップ)
- ・ 高齢者も、平成10年から20年にかけて増加、平成20年から30年にかけて減少
(高齢者 H10：2.71トリップ ⇒ H20：2.94トリップ ⇒ H30：2.75トリップ)
(p18)
- ・ 平成20年から30年にかけての平均目的トリップ数の減少は、オンラインショッピングの普及の影響があるものと想定。

(注3) 外出した人1人当たりの目的を持った移動の回数。外出人口全員の目的トリップ数合計÷外出人口

⑥ 移動目的(注4)

- ・ 平成10年から30年にかけて、全年齢では「私事目的」「業務目的」とともに約3割で推移。高齢者では「私事目的」約4～5割、「業務目的」約1割で推移。
高齢者は、全年齢に比べ「私事目的」の割合が高い(p20)。
- ・ 高齢者(平成30年)の「私事目的」の内容は、「買い物」40%、「通院」16%等(p21)。
70歳以上では、加齢に伴い「通院・リハビリ・デイサービス」目的の割合が高まる(p22)。

(注4) 私事目的: 買物、食事・社交・文化活動、通院・リハビリ・デイサービス、他者の用事の付き添い、他者の送り迎え、散歩・ジョギング・運動、観光・行楽・レジャーなど
業務目的: 通勤、通学、打合せ・会議・商談、販売・仕入など

⑦ 交通手段

- ・ 外出した都民(平成30年)の交通手段の構成割合(注5)は、「徒歩」54%、「鉄道」21%、「自転車」10%、「自動車」7%、「バス」4%(p28)。
- ・ 外出した高齢者(平成30年)の交通手段の構成割合は、「徒歩」49%、「鉄道」12.3%、「自動車」12.1%、「自転車」11.8%、「バス」8%(p30)。
- ・ 70歳以上では、「80歳代以上」において、「鉄道」での移動割合が低く、

「バス」での移動割合が高い (p31)。

(注5) 特定の手段トリップ数/全手段トリップ数。手段トリップは、目的トリップを構成する徒歩、バス、鉄道等の1つの「交通手段」による移動を1単位とするもの。

自宅と勤務地を往復する(目的トリップ数は2)場合、自宅⇄(徒歩)⇄駅⇄(鉄道)⇄駅⇄(徒歩)⇄勤務地の交通手段をとる場合、手段トリップ数は徒歩4、鉄道2＝徒歩67%、鉄道33%。

⑧ 移動の時間帯

- ・ 高齢者の「移動(出発・到着)の時間帯」は、全年代と比較して、出発・到着時刻のピークが日中時間帯にシフト(p40)。

(2) 高齢者の外出・移動の分析(平成30年)

① 属性による分析

- ・ 「世帯年収が200万円未満」、「単身あるいは世帯人数3人以上」、「運転免許の非所有者・返納者」、「自動車の非所有者」、「移動に関する身体的困難度が高い人」は、全体平均よりも外出率が低い(p44~47)。
- ・ 属性別にみた外出人口1人当たりの平均目的トリップ数も、上記と同様。(p47~50)。
- ・ 「就業の有無」で見ると、外出率は就業者の方が全体より高いものの、外出人口1人当たりの目的トリップ数は非就業者の方が全体より高くなっている(p46、p49)。
- ・ 外出を「必需的移動(通勤通学、日用品の買い物、通院等)」、「余暇的移動(日用品以外の買い物、食事・社交等)」に分類すると、65歳未満では必需的移動が76%、余暇的移動が24%。高齢者では必需的移動が55%、余暇的移動が45%(p52)。

② 外出・移動距離、活動圏域の分析

- ・ 高齢者の1回の目的別トリップの平均移動距離(直線距離)は2.75km。
- ・ 目的別にみると、通勤・通学・業務7.35km、食事・社交・文化活動6.23km、通院・リハビリ・デイサービス2.98km、買い物目的2.26km(p60)。
- ・ 70歳以上では、世代が上がるにつれて移動距離が短くなる(p61)。
(全目的 70歳代2.64km、80歳代以上2.10km)
- ・ 高齢者の移動の範囲は、居住している基礎自治体内での移動が62%、居住している基礎自治体を超え、東京都内の移動が31%、都外への移動は8%(p63)。
- ・ 地域別にみると、県境に位置する自治体の一部では、全体と比べて都外への移動の割合は高い。(都外への移動割合(全目的)が高い上位3自治体:町田市23%、清瀬市16%、稲城市14%)(p65)。

③ 交通手段別の分析（地域別）

- ・ 高齢者の鉄道利用は「区部」が一番多い。
70歳以上では、年齢が上がるにつれ鉄道利用は減少（p94）。
（手段トリップ : 区部 0.6トリップ、市部 0.46トリップ、町村部 0.26トリップ）
（区部・70歳以上 : 70歳代:0.59トリップ、80歳代以上:0.39トリップ）
- ・ 高齢者のバス利用は「市部」が一番多い。
70歳以上では、年齢が上がるにつれバス利用が増加（p95）。
（手段トリップ : 区部 0.33トリップ、市部 0.37トリップ、町村部 0.21トリップ）
（市部・70歳以上 : 70歳代:0.37トリップ、80歳代以上:0.54トリップ）
- ・ 高齢者の自動車利用は「町村部」が一番多い。
70歳以上では、年齢が上がるにつれ自動車利用が減少。（p96）
（手段トリップ : 区部 0.38トリップ、市部 0.84トリップ、町村部 1.87トリップ）
（町村部・70歳以上 : 70歳代:1.95トリップ、80歳代以上:0.85トリップ）
- ・ 高齢者の徒歩での移動は「区部」が一番多い。
70歳以上では、年齢が上がるにつれ徒歩移動が減少。（p97）
（手段トリップ : 区部 2.34トリップ、市部 1.92トリップ、町村部 0.84トリップ）
（区部・70歳以上 : 70歳代:2.36トリップ、80歳代以上:2.17トリップ）

④ 高齢者の鉄道駅・バス停までの平均移動距離圏と外出・移動の分析

- ・ 高齢者の公共交通利用時の駅やバス停までの平均移動距離に基づき、
区部：鉄道駅からの距離500m・バス停からの距離150m、
多摩：鉄道駅からの距離650m・バス停からの距離150m
の区域（平均移動距離圏）を設定（p119）。
- ・ 区域の内外で外出率や外出口1人当たり目的トリップ数に大きな違いはない。
（外出率 : 区域内58%、区域外56%）
（目的トリップ数 : 区域内2.7トリップ、区域外2.7トリップ p119）
- ・ 地理的要因よりも高齢者の属性的要因が、外出・移動に与える影響が大きい。
（p130）。